



魅力あふれる世界の昆虫切手



1958年 ハンガリー

「アリとキリギリス」

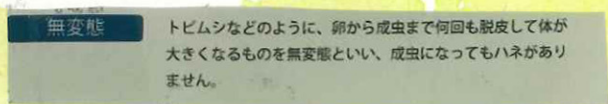
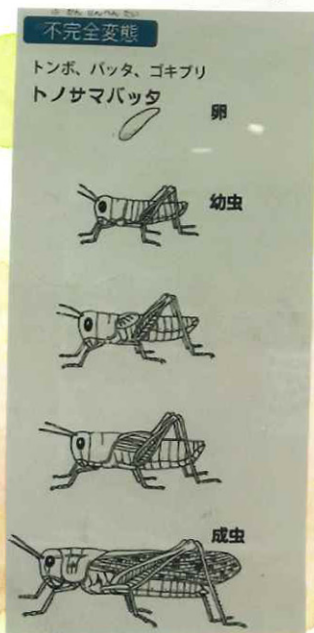
“ 勤勉な現在から確実な未来を作る ”
勤勉と貯蓄を奨励するデザイン

昆虫とは

いまからおよそ6500万年前シダ植物やイチョウソクなどの裸子植物は、恐竜に食べられるばかりでした。ところが恐竜が「ほろぷ」と植物は樹液や花の蜜を提供するかわりに、花粉を運び生殖を助けてもらう共生の関係を昆虫とむすびます。互いに利用し合い進化の道を歩んでいるのです。私たちの住むこの地球上には100万種もの生き物がいるとされています。そのうち80万種を昆虫がしめていのですから、地球は昆虫の王国とも言えるでしょう。しかし、日本版レッドデータブックによると、毎年住むところを人間たちに追われた昆虫たちが絶滅していています。

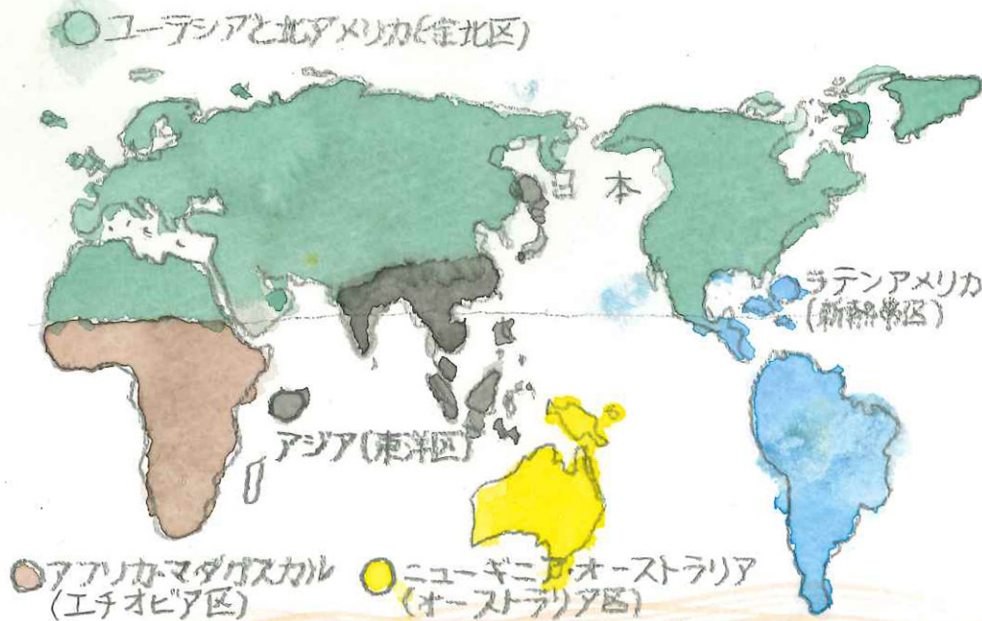
昆虫の変態

昆虫が卵からかえってから成虫になるまでの変化を変態といいます。変態の方法には、完全変態、不完全変態、無変態の3つがあります。



昆虫の住む地域

現在、昆虫のすんでいる場所は、動物区と同様に5〜6地域に分かれています。



● アフリカ・マダガスカル(エチオピア区)

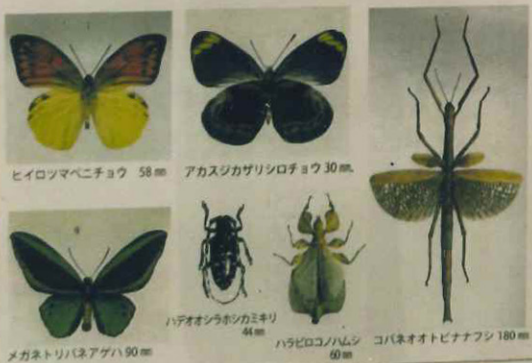
ザルモクシスオオアゲハ、ゴライアスオオツノハナムグリなど固有種。
アジア地域と共通の種が多数



1本の木の上に
その植物しか
食べられない昆虫が
住み、それに寄生
する寄生昆虫が
くらいて社会が
できている。

● ニューギニア・オーストラリア(オーストラリア区)

オオトビナナフシ、オオクツワムシなど巨大で形の変わった種や固有種



となりの木には、
また違う昆虫たち
1本の木ごとに
昆虫の社会がある。

● アジア(東洋区)

昆虫の宝庫。ツヤクワガタ、キシタアゲハ、木の葉そっくりのコノハムシなど珍しい種



● ラテンアメリカ(新熱帯区)

ヘラクレスオオカブトなど巨大なカブト、美しいモルフォチョウ



ユーラシアと北アメリカ (全北区)



1989年 ソビエト連邦
ミツバチアヒム科



1989年 ソビエト連邦
「ミツバチ」
10~13mm
丸っこい体型で、体全体が
ふわふわとした体毛にあおわれている。



1980年 ハンガリー
「セイヨウオオマルハナバチ」
10~20mm
全身に毛が生えている



1987年 ハンガリー
「ヨーロッパオオマルハナバチ」
オス 19~23mm X ス 17~22mm
飛翔しない暗色の昆虫で比較的大きい



1993年 ブルガリア
「タイリクオシカメムシ」
赤と黒の鮮やかな模様が特徴的



1992年 ブルガリア
「ウスバカマキリ」
オス 55mm X ス 60mm
淡緑色または淡褐色をしている

ユーラシアと北アメリカ(全北区)



1988年ポーランド
「ヨツボシトンボ」

オス 39~52mm x ス 38~49mm
ガッリとした体型の中型のトンボ



1988年ポーランド
「アオハダ」トンボ

55~63mm
体全体は緑色の強い金属光沢を持つ



1988年ポーランド
「ヨーロッパオオサナエ」
58~65mm

腹部に黄色と黒の環状の模様がある



1988年ポーランド
「コウデイギニヤニマ」
78mm

オスは青色、スは緑色の体色



1987年ポーランド
「ミツバチ」

働きバチ 12~14mm
広産バチ 15~18mm



1992年チェコスロバキア
「オオツバハンミョウ」
12~30mm

全身が光沢のある紺色をしている

ユーラシアと北アメリカ(全北区)



1972年 モンゴル
「モンゴルマイグラシ」
中型から大型
体長2.5cm やや平たい体型



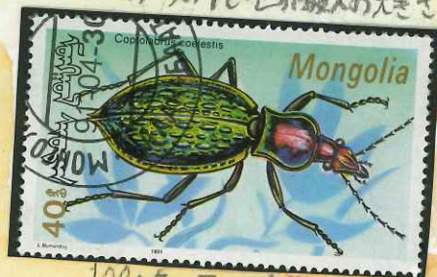
1972年 モンゴル
「オオクロナカオウシ」
260~390mm
全体的に光沢が少なく



1991年 モンゴル
「アハスオツノハナムケ」
オス 55~110mm メス 54~80mm
ハナムケの中で世界最大の大きさ



1972年 モンゴル
「コマロフハシ」
小型から中型
丈夫な体躯の卵型57体型



1991年 モンゴル
「オサムシ」
中型から大型
全身金属光沢を帯びた体色



1972年 モンゴル
「メロエセントリプベンス」
数ミリメートルから数センチメートル
黒や青みがかった黒の多い



1991年 モンゴル
「オオキバウスカミキリ」
最大2170mm
世界最大級のカミキリムシの一種

ユーラシアと北アメリカ(全北区)



1980年 ハンガリー
「トラカミキリ」
15mm ~ 25mm
黄と黒の縞模様は、
ハチに擬態している。



1996年 ルーマニア
「ヤナギハムシ」
8mm
薄黄色からオレンジ色の地に
黒い斑紋が特徴



1996年 ルーマニア
「ヨーロッパオオカミ」
26 ~ 39mm
全体的に黒色で、背面は
頭部を除いて光沢が強い



1996年 ルーマニア
「ヨーロッパサイカアト」
20 ~ 45mm
サイカアト角を持つ巨大な体



1980年 ハンガリー
「アキハコウムシ」
数mm ~ 10mm 満天の
細長い体型をしている。



1967年 ハンガリー
「ニコソバゾウムシ」
3 ~ 4.5mm
暗褐色の長卵形をしている。



1996年 ルーマニア
「ヤナギチビタマシ」
25 ~ 3.8mm
一般的に黒い体色



1996年 ルーマニア
「ハムシ」
約3mm
オレンジ黄色の鞘翅(上翅)に
10個の黒い縞模様を持つ

アジア(東洋区)



1998年カンボジア

「リウカブト」

オス 70~144mm x 50mm~85mm
世界で最も体重が重いカブトムシ

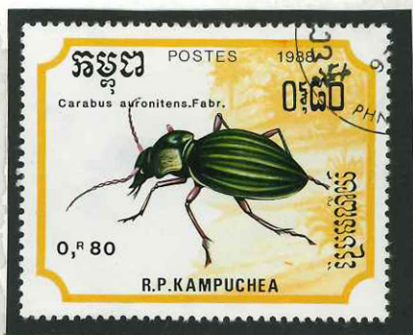


1998年カンボジア

「ヨコハノミヤマクワガタ」

オス 29~54mm x 28~42mm

オスは発達した大顎を持ち先端が二ヶ月に大きく開いている

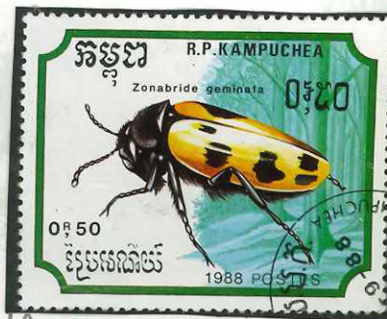


1988年カンボジア共和国

「オオオリムシ」

27~37mm

全体黒色



1988年カンボジア

「オビケンセイ」

10~20mm

頭は大きく首が細く長い



1998年カンボジア

「カミキリムシ」

38mm

成虫の触角はオスは体長の

2倍 x 2は体長と同じくらい長さ



1998年カンボジア王国

「オオオシロアオゴシムシ」

15mm~18mm

頭部と前胸は銅緑色の金っぽい
金属光沢がある

もし、日本の昆虫切手をデザインするとしたら、何にしよう...

日本は小さな島国ですが、南北に長いので沖縄県は亜熱帯、北海道は温帯~亜寒帯と気候の変化にとんでいます。そのため、昆虫の種類も沖縄などの地域では東南アジアや中国南部の東洋区と同じ種類がすみ、北の地方ではシベリヤやカラフトなど全北区と同じ種類というように、2つの生物区の昆虫がみられます。

日本に分布している昆虫の種類数

チョウのなかま	約230種
コガネムシのなかま	約300種
トンボ	約200種
セミ	約40種
バッタ	約200種

悩んでしまう

アフリカ・マダガスカル(エチオピア区)



1973年 ルワンダ共和国
「グンバイムシ」
3~5mm
種によって多様な羽色が見られる



1975年 ルワンダ共和国
「フィマテウス・ブルネリ」
大型
鮮やかな色彩を持つ



1973年 ルワンダ共和国
「ディオプシス・フミペニス」
数ミリメートルから数センチメートル
翅の先端に目が位置している。



1996年 トーゴ共和国
「アエロオウムシ」
美しい金属光沢を持つ



1996年 トーゴ共和国
「オビケンセ」
20mm
黒い胴を持ち比較的細長い
形状をしている。



1996年 トーゴ共和国
「アエラスベニカミギリ」
13~17mm
体は黒いがい上翅(羽根)と
前胸が落ちアハチ紅色で美しい



1998年 ギニア共和国
「ヒラタクヌストモドキ」
3~4mm
赤褐色の甲虫



1993年 マダガスカル
「ヒナクグリス」
10~19mm
黒や赤や黄色の斑が見られる



1996年 トーゴ共和国
25~40mm
体色は青灰色で黒い斑紋がある

ラテンアメリカ(新熱帯区)



1988年 ニカラグア
「アフトユカネ」
25~35mm
金色の体色を持つ



1988年 ニカラグア
「タマオシコカネ」
19~40mm
多くは黒色だが、金属光沢を
持つものもある。



1988年 ニカラグア
「ユカネムシ」
20~35mm
光沢のある甲虫で緑と
赤褐色の模様が特徴的



1988年 ニカラグア
「コカネムシ」
17~23mm
強い金属光沢を持つ金緑色



1988年 ニカラグア
「カフトムシ」
5~90mm
多くは黒色だが、金属光沢を持つものや、
背面に凹凸があるものもある。

昆虫の切手を発行する理由

主なものとして、文化的な関心を高めるため、自然保護の啓発のため、収集対象としての需要、そして観光振興が挙げられます。



1983年 キューバ
カルロス・J・フレイ博士の
生誕150周年と、死後
50周年を記念した切手



1963年 キューバ
「マラリアに対する世界の団結」
マラリア撲滅キャンペーン
の記念切手



1964年 ホーランド
「マラリアとの戦い」
ハマダラカ属の蚊
が描かれている

【番外】



こちらは
昆虫では
ありません。
節足動物
の仲間

1994年 コンゴ共和国
「オオカミグモ(鳥を食する怪)」
3列をなす特殊な
目の配列

おわりに

世界の昆虫切手は 外国語なので 調べるのが大変でした。AI画像認識の力を使って発見することができて、安心しました。

自分が思ったり、考えたりしていた昆虫と同じだと、より一層感動して、ずっと切手をうっとりと眺めてしまいました。国によって、昆虫のデザイン、色合いや雰囲気も違いますが、それぞれ特徴があり、個性豊かであることが分かりました。まだ知らない国の切手で昆虫をもっと調べていきたいと思いました。

私は、昆虫の住む地域や昆虫の生長過程に興味があるので、植物と一緒に昆虫の社会を描いた昆虫切手をデザインしてみたいなりました。

卵や幼虫、さなぎの切手は、珍しいかもしれません。

そのほか、絶滅危惧種、外来種の問題なども含めて、切手のデザインでメッセージを送る方法も、とても学びになりました。私たちにできることは何かを考え、行動していく必要を忘れないでいたいと思います。